令和元年度前期　学群教育改善計画

学群（学部）名	食産業学群
学群（学部）長名	西川正純

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について３つ挙げてください。
※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：座学講義において、授業時間外の学修時間、特に予習の時間が少ない科目がまだ認められる。なお、実験・実習科目については、毎回レポート課題が出ており、 2 時間半以上の時間外学習を実施した例が多かった。その一方で、レポートの提出に追われて脱落する学生も見受けられており、新たな課題となりつつある。
	理由	予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。またレポート課題が多すぎて対応ができない学生がいることについては、実験・実習科目が２年次に集中していることが原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考える。
	理由	予習・復習が行えていないことに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。
③	課題	実験・実習科目において、ピペットマン等の実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。
	理由	実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間があることに加え、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることが原因と推察される。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	２月の教員会議・教授会、学類（学科）会議で情報の共有化を図る。対策としては、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD（Learning Through Discussion）やグループワークを取り入れること、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませること、さらに事後学修として、宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施することで、授業外学修の習慣付けを実現する。また、実験実習科目が２年次に集中していることについては、基盤教育も含めてカリキュラム編成の見直しを行うこととしたい。
②	２月の教員会議・教授会、学類（学科）会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、 LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。また、履修者の多い科目については、２グループに分けての講義や実験・実習などを将来検討する必要があると考える。
③	実験・実習科目における学生間の学修効果にばらつきについては、ピペットマン等の実験器具を履修者数整備することで、先ずは解決を試みる。測定機器等の実験機材の不足については、新年度予算の教材費中の備品費での整備を検討する。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例としては、「食産業に関する基本的な知見（農業、畜産、植物・動物、食材）が得られたこと」、「課題を通じて実践形式で学ぶことができた点」、「実例を挙げながら丁寧に説明していた点」などがあり、授業改善の良い事例としては、「基礎的部分が不十分な受講学生については個別の対応などについても積極的に取り組む」、「”自分事”として捉えられるよう、授業の目的、授業毎の到達目標を伝える」などであった。

2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教育改善計画としては、昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。